

玉ねぎの輸出



- 全国一の生産地を管轄する函館税関は、全国シェア1位を2012年以降4年連続獲得！
- 2015年は飛躍的に増加、1979年以降で過去最高に！

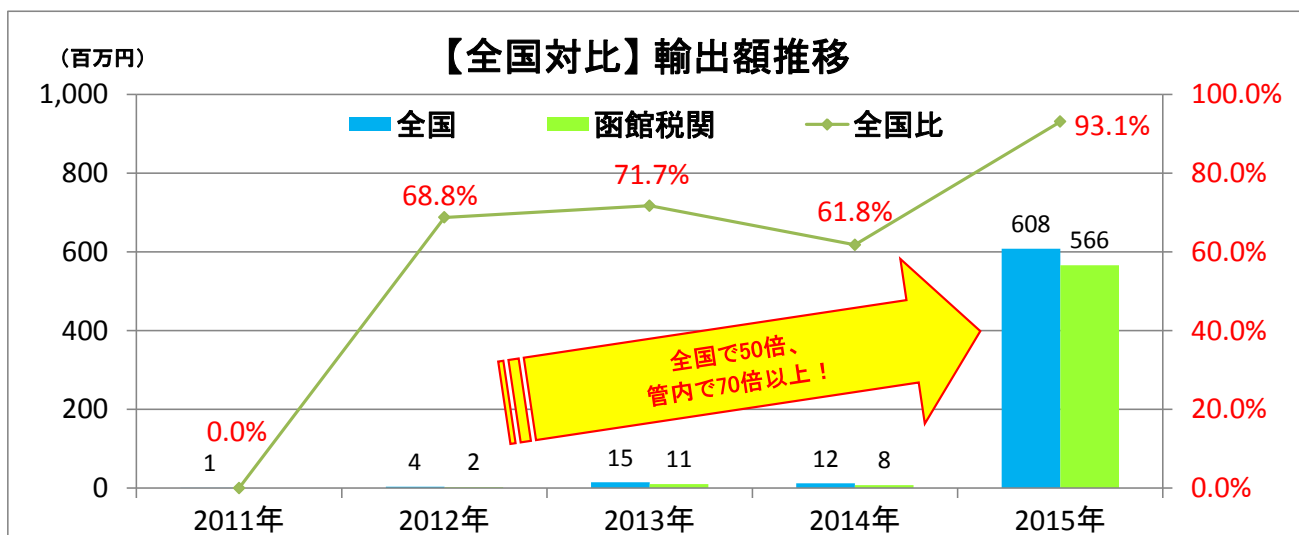
1. はじめに

函館税関が管轄する北海道は、広大かつ肥沃な大地を背景に様々な農産物が栽培・収穫されており、収穫量が全国トップの品目も数多くあります。

玉ねぎもその一つで、2014（平成26）年の農林水産省作物統計を見ると、作付面積や収穫量は全国比50%超、出荷量は同60%超と全国トップシェアです。

貿易統計を見ると、東日本大震災の影響を受けた2011（平成23）年は全国的にほとんど輸出されなかったものの徐々に回復、2015（平成27）年は大豊作となったこともあり、当関からの輸出が初めて1億円を超え、5億66百万円となりました。

そこで、今回の特集では「玉ねぎ」の輸出について見ていきたいと思います。



※函館税関は、北海道・青森県・岩手県・秋田県を管轄しています。



※本特集における「玉ねぎ」について、以下の輸出統計品目番号を使用しております。

【1979（昭和54）年～1987（昭和62）年】 07.01-310

【1988（昭和63）年～】 0703.10-000

2. 全国動向（2015年）

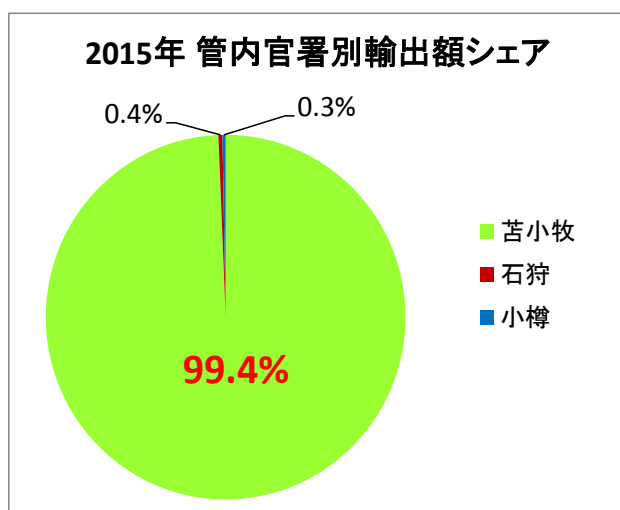
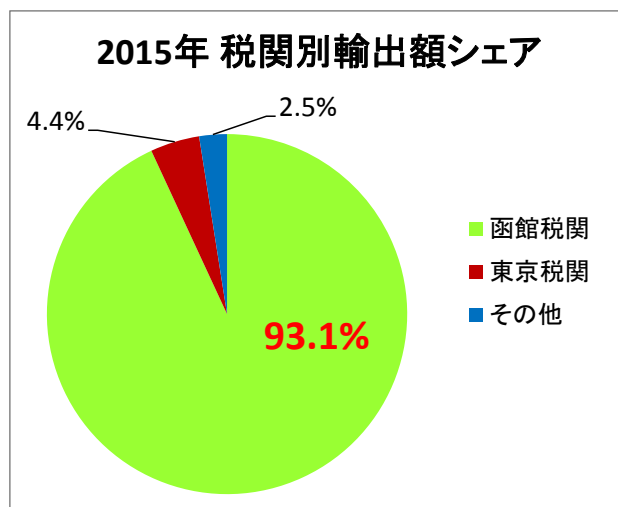
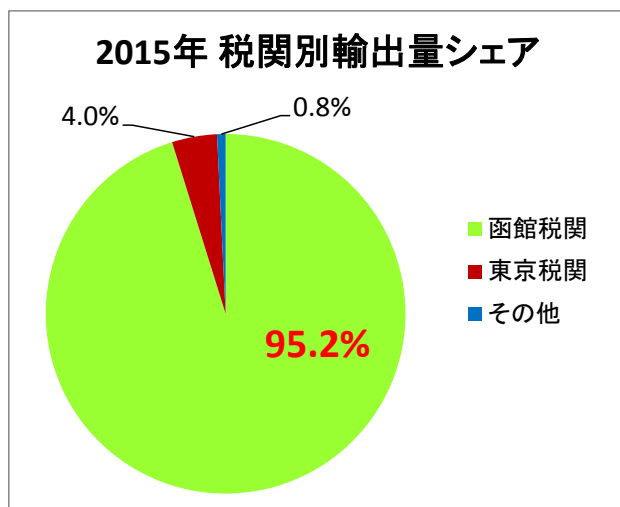
まず、2015年の全国税関別輸出実績を見てみましょう。

輸出量は全国で11,464,690kgでしたが、函館税関管内からはそのうち95.2%にあたる10,912,945kgを輸出しました。

輸出額は全国で6億8百万円となりましたが、うち93.1%の5億66百万円を函館税関管内から輸出しています。

	輸出量 (kg)	輸出額 (千円)
函館税関	10,912,945	566,328
東京税関	464,010	26,890
門司税関	31,360	3,766
大阪税関	30,850	6,835
神戸税関	25,525	4,512
全国計	11,464,690	608,331

同年が大豊作とはいえ、やはり全国一の収穫量を誇る北海道の存在は大きいですね。



3. 管内官署別シェア（2015年）

次に、同年における函館税関の輸出実績を官署別に見ていきますと、多数のコンテナ航路を有し、貨物取扱量の多い苫小牧支署における通関額が5億63百万円（全国比92.5%、管内比99.4%）と全国・管内を通じて圧倒的なシェアを記録していることが分かります。

北海道随一の貿易額を誇る苫小牧が最上位となりました。

また、少額ではありますがその他の通関官署として、石狩出張所、小樽支署となっております。

	輸出量 (kg)	輸出額 (千円)
函館税関	10,912,945	566,328
苫小牧	10,823,800	562,668
石狩	48,000	2,027
小樽	41,145	1,633

4. 地域・国別シェア（2000年と2015年との比較）

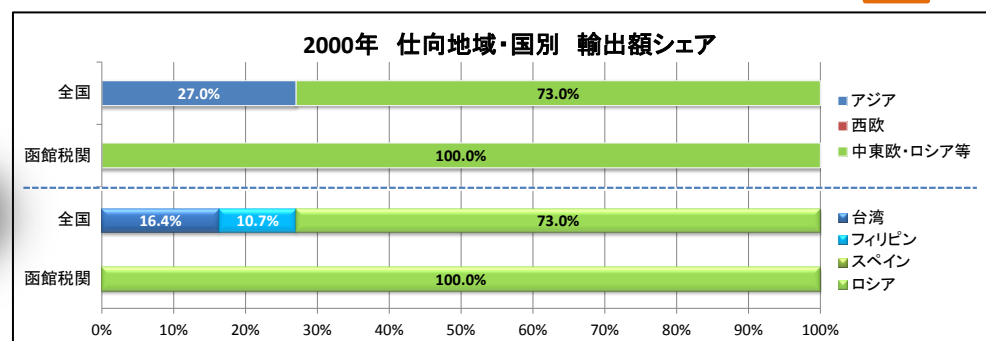
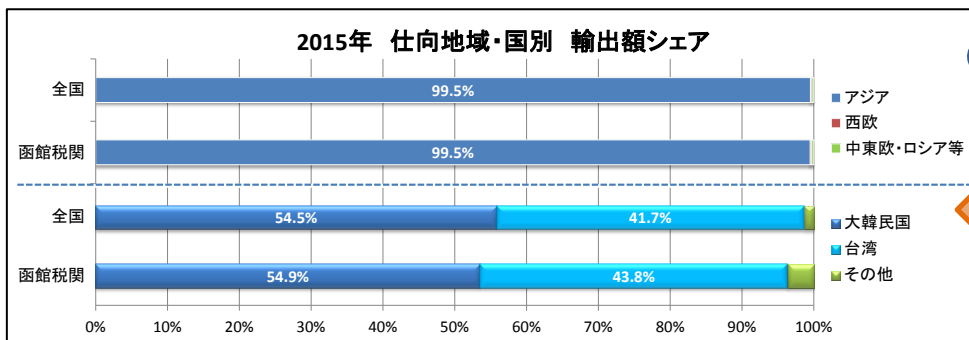
では、輸出先の地域・国別シェアで見ましょう。

2015年の地域別では全国・函館税関ともにアジア圏に99%以上輸出されています。

国別では、隣国の韓国が約5割強、次いで台湾が約4割となっており、この2ヶ国だけで全国。函館税関ともに95%を超える結果となっております。

現在はアジア圏が最も熱い輸出先となっておりますが、以前はどうだったのでしょうか。

2000年の輸出実績を見てみると、アジア圏は全国で27%と低く、中東欧・ロシア等が73%となっていました。そのうち函館税関管内からは、主力貿易相手国のロシア向けに100%輸出されていました。



<ーロメモ①>



「マルチプレイヤー」

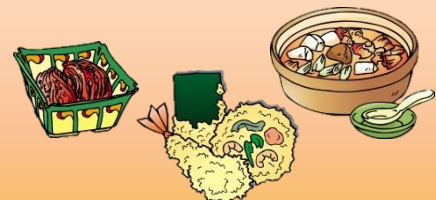


様々な食材に溢れ、食文化も多様化している現在、玉ねぎを使用した料理は良く口にしていると思います。

日本古来の食文化「和食」を見ると、肉じゃがや天ぷら、すき焼き、豚汁等の具材のほか、漬物に至るまで、主菜・副菜を問わず幅広く使われています。

海外に目を向けてみると、アジア圏では韓国のキムチやプルコギ、フランスのポトフ、ロシアのボルシチ、ドイツのジャーマンポテトのようなメイン料理のほか、アチャール（インドの酸っぱ辛い漬物）やサルサソースの具材等、和洋折衷顔を出します。また、オニオンリングフライはファーストフード店でも目にしますよね。

いわば野菜界の「マルチプレイヤー」と言えますね。



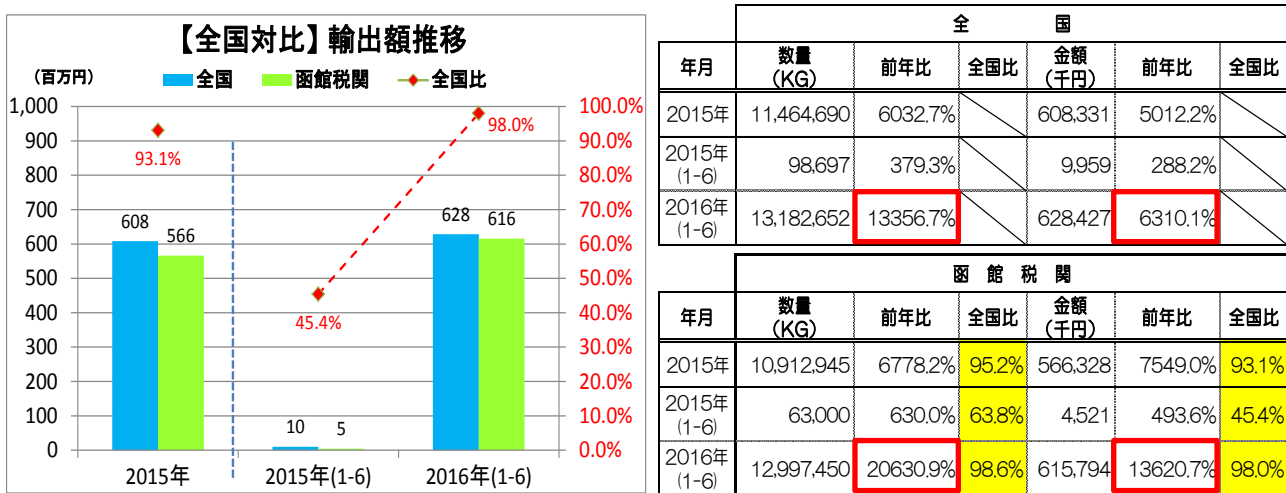
5. 2016 年上半期について

驚異的な伸びを見せた 2015 年。では今年 2016 年の上半期はどのような推移となっているか見てみましょう。

2016 年 1 月から 6 月までの上半期で全国から輸出された量は 13,182,652kg、うち 98.6%の 12,997,450kg が函館税関管内から輸出されています。輸出額は全国で 6 億 28 百万円、うち 98.0%にあたる 6 億 16 百万円が函館税関管内分となっています。

そうです、2016 年上半期だけで昨年 1 年間の実績を上回ったこととなります。

高い品質を誇る日本の野菜が世界に求められているのかもしれないですね。



<ーロメモ②>

「新玉ねぎ」「ペコロス」は別品種？

食卓でなじみのあるのは、茶色の乾燥した薄皮を身に纏った「黄玉ねぎ」と呼ばれるごく一般的なもの。しかし、ある季節になると薄黄色の皮に覆われ、真っ白でみずみずしい「新玉ねぎ」が店頭に並ぶほか、洋食の付け合せで目にする小さな玉ねぎ「ペコロス」もスーパー等で見掛けることがあります。

さて、この2つは普通の玉ねぎと何が違うのでしょうか？

通常、玉ねぎは春に種を植え秋に収穫するようですが、新玉ねぎは秋に種を植え春に収穫する「早採り」の玉ねぎのことなんです。また、新玉ねぎには普通の玉ねぎと比べ「辛味が少なく甘みが強い」というイメージがありますが、どうやら出荷の段階で秘密があるようで、通常は収穫後1ヵ月程乾燥させ順次出荷されますが、新玉ねぎは収穫後すぐに出荷され、また水分が多いことから、みずみずしく甘みが強く感じられるそうです。

ペコロスは直径3～4cmの極小玉ねぎで、フランス料理には欠かせない食材として知られており、一般的な品種を通常の10倍程度に密植して栽培するほか、専用品種もあり、北海道北見市や愛知県知多市、大阪府などでも栽培されています。



あとかき ～日本への伝来から現在～

取材の中で、玉ねぎが日本に伝来した歴史を目にする機会がありました。

玉ねぎが日本に上陸したのは、西欧の貿易商を乗せた南蛮船で長崎に持ち込まれたのが最初で、元々は観賞用として広まったそうです。

食用としては明治4年、北海道開拓使によって栽培されたのが始まりとされており、その際に持ち込まれた品種「札幌黄」は現在でも栽培されています。

その後、生産者や研究者、種苗会社等による品種改良を経て、現在では国内の殆どの都道府県で栽培されているほか、海外でも日本の品種が栽培されているようです。

子供の頃は「辛い」「苦い」と嫌いだっただ人も、年齢を重ねると何事もなく食べられるようになっていく「玉ねぎ」。今では、レシピサイトやブログでも玉ねぎを使った料理も多くなりましたね。

普段何気なく食べていた人も、こういった歴史に思いを馳せ、新たな気持ちで食べてみませんか？（切った時の涙は我慢して下さいね。）

【取材協力】

北海道農政事務所、北海道経済産業局、ホクレン農業協同組合連合会



【本資料に関する問い合わせ】

函館税関 調査部 調査統計課 TEL:0138-40-4281(直通)

〒040-8561 北海道函館市海岸町 24-4 函館港湾合同庁舎 3階

※本資料を引用する際は「函館税関の資料による」旨注記願います。

【参考データ】

1. 年別推移(全国 / 函館税関)

年月	全 国				函館税関					
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	全国比	金額 (千円)	前年比	全国比
1979年	994,980	—	47,703	—						
1980年	206,250	20.7%	15,862	33.3%						
1981年	1,001,874	485.8%	118,212	745.3%						
1982年	2,131,300	212.7%	122,256	103.4%						
1983年	268,000	12.6%	18,372	15.0%						
1984年	739,600	276.0%	62,751	341.6%						
1985年	6,812,400	921.1%	254,713	405.9%						
1986年	105,580	1.5%	10,342	4.1%	20,000	—	18.9%	1,800	—	17.4%
1987年	3,733,700	3536.4%	138,215	1336.4%	120,000	600.0%	3.2%	4,136	229.8%	3.0%
1988年	1,350,180	36.2%	53,925	39.0%	1,350,000	1125.0%	100.0%	53,617	1296.3%	99.4%
1989年	1,704,000	126.2%	76,316	141.5%	1,650,000	122.2%	96.8%	72,210	134.7%	94.6%
1990年	1,565,385	91.9%	146,909	192.5%	2,000	0.1%	0.1%	450	0.6%	0.3%
1991年	98,000	6.3%	8,905	6.1%		全減	0.0%		全減	0.0%
1992年	3,655,290	3729.9%	164,384	1846.0%	298,000	全増	8.2%	10,442	全増	6.4%
1993年	646,500	17.7%	42,156	25.6%	80,500	27.0%	12.5%	1,945	18.6%	4.6%
1994年	75,835	11.7%	6,655	15.8%	10,540	13.1%	13.9%	777	39.9%	11.7%
1995年	300	0.4%	210	3.2%		全減	0.0%		全減	0.0%
1996年	244,000	81333.3%	12,066	5745.7%	222,000	全増	91.0%	10,650	全増	88.3%
1997年	1,427,257	584.9%	43,112	357.3%	1,314,000	591.9%	92.1%	39,086	367.0%	90.7%
1998年	1,977,680	138.6%	75,958	176.2%	1,724,560	131.2%	87.2%	64,442	164.9%	84.8%
1999年	1,407,870	71.2%	56,677	74.6%	1,203,500	69.8%	85.5%	40,357	62.6%	71.2%
2000年	1,330,000	94.5%	40,547	71.5%	1,050,000	87.2%	78.9%	29,580	73.3%	73.0%
2001年	1,249,964	94.0%	43,732	107.9%	689,000	65.6%	55.1%	17,528	59.3%	40.1%
2002年	3,813,400	305.1%	86,162	197.0%	3,567,000	517.7%	93.5%	76,929	438.9%	89.3%
2003年	847,120	22.2%	26,571	30.8%	564,800	15.8%	66.7%	15,670	20.4%	59.0%
2004年	312,000	36.8%	8,580	32.3%	312,000	55.2%	100.0%	8,580	54.8%	100.0%
2005年	32,660	10.5%	1,815	21.2%	5,880	1.9%	18.0%	700	8.2%	38.6%
2006年	9,397	28.8%	1,535	84.6%		全減	0.0%		全減	0.0%
2007年	3,179,286	33833.0%	94,169	6134.8%	2,981,800	全増	93.8%	83,605	全増	88.8%
2008年	2,772,316	87.2%	84,441	89.7%	2,627,200	88.1%	94.8%	75,799	90.7%	89.8%
2009年	1,159,812	41.8%	19,248	22.8%	1,147,000	43.7%	98.9%	16,942	22.4%	88.0%
2010年	74,281	6.4%	2,657	13.8%	68,000	5.9%	91.5%	1,361	8.0%	51.2%
2011年	3,740	5.0%	566	21.3%		全減	0.0%		全減	0.0%
2012年	61,934	1656.0%	3,584	633.2%	55,000	全増	88.8%	2,464	全増	68.8%
2013年	232,960	376.1%	14,749	411.5%	196,000	356.4%	84.1%	10,580	429.4%	71.7%
2014年	190,043	81.6%	12,137	82.3%	161,000	82.1%	84.7%	7,502	70.9%	61.8%
2015年	11,464,690	6032.7%	608,331	5012.2%	10,912,945	6778.2%	95.2%	566,328	7549.0%	93.1%
2015年(1-6)	98,697	379.3%	9,959	288.2%	63,000	630.0%	63.8%	4,521	493.6%	45.4%
2016年(1-6)	13,182,652	13356.7%	628,427	6310.1%	12,997,450	20630.9%	98.6%	615,794	13620.7%	98.0%

実績なし

2. 仕向国比較(2000年 / 2015年)

(1) 2000(平成12)年

地域/国	全 国				函館税関			
	数量 (当年)	前年比	金額 (当年)	前年比	数量 (当年)	前年比	金額 (当年)	前年比
アジア	280,000	114.8%	10,967	134.1%	—	全減	—	全減
台湾	140,000	57.4%	6,633	81.1%	—	全減	—	全減
フィリピン	140,000	全増	4,334	全増	—	—	—	—
西欧	—	全減	—	全減	—	—	—	—
スペイン	—	全減	—	全減	—	—	—	—
中東欧・ロシア等	1,050,000	90.2%	29,580	75.2%	1,050,000	90.2%	29,580	75.2%
ロシア	1,050,000	90.2%	29,580	75.2%	1,050,000	90.2%	29,580	75.2%
総計	1,330,000	94.5%	40,547	71.5%	1,050,000	87.2%	29,580	73.3%

(2) 2015(平成27)年

地域/国	全 国				函館税関			
	数量 (当年)	前年比	金額 (当年)	前年比	数量 (当年)	前年比	金額 (当年)	前年比
アジア	11,383,545	40948.0%	605,537	14187.8%	10,831,800	全増	563,534	全増
大韓民国	6,517,200	全増	331,599	全増	6,120,400	全増	310,633	全増
台湾	4,715,668	235783.4%	253,877	103623.3%	4,646,400	全増	248,155	全増
香港	73,545	309.0%	13,182	345.6%	2,000	全増	225	全増
シンガポール	710	全増	222	全増	—	—	—	—
マレーシア	13,422	671.1%	2,136	1022.0%	—	—	—	—
インドネシア	63,000	全増	4,521	全増	63,000	全増	4,521	全増
西欧	40,000	全増	1,161	全増	40,000	全増	1,161	全増
オランダ	40,000	全増	1,161	全増	40,000	全増	1,161	全増
中東欧・ロシア等	41,145	25.4%	1,633	20.8%	41,145	25.6%	1,633	21.8%
ロシア	41,145	25.4%	1,633	20.8%	41,145	25.6%	1,633	21.8%
総計	11,464,690	6032.7%	608,331	5012.2%	10,912,945	6778.2%	566,328	7549.0%

【参考データ】

3. 全国官署別比較(1985年 / 2000年 / 2015年 / 2016年(1-6月))

税関/港	1985(昭和60)年				2015(平成27)年			
	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比	数量 (KG)	前年比	金額 (千円)	前年比
東京税関	-	-	-	-	464,010	11600.3%	26,890	5922.9%
東京	-	-	-	-	464,010	11600.3%	26,890	5922.9%
横浜税関	1,200	75.0%	241	59.8%	-	-	-	-
横浜	1,200	75.0%	241	59.8%	-	-	-	-
神戸税関	6,548,200	909.5%	245,444	403.3%	25,525	483.2%	4,512	487.8%
神戸	6,548,200	909.5%	245,444	403.3%	25,525	631.8%	4,512	808.6%
大阪税関	-	-	-	-	30,850	324.1%	6,835	459.7%
大阪	-	-	-	-	30,850	324.1%	6,835	459.7%
門司税関	263,000	1461.1%	9,028	605.5%	31,360	352.4%	3,766	241.4%
門司	263,000	1461.1%	9,028	605.5%	-	-	-	-
博多	-	-	-	-	31,360	352.4%	3,766	241.4%
函館税関	-	-	-	-	10,912,945	6778.2%	566,328	7549.0%
苫小牧	-	-	-	-	10,823,800	全増	562,668	全増
釧路	-	-	-	-	-	-	-	-
小樽	-	-	-	-	41,145	216.6%	1,633	82.6%
稚内	-	-	-	-	-	全減	-	全減
石狩	-	-	-	-	48,000	全増	2,027	全増

4. 管内仕向国別推移(1988年以降)

(数量単位：t、価額単位：千円)

年	韓国		中国		台湾		香港		シンガポール		マレーシア		インドネシア		オランダ		ロシア	
	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額	数量	価額
1988年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,350	53,617
1989年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,650	72,210
1990年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	450
1991年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1992年	-	-	-	-	120	4,224	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	178	6,218
1993年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	81	1,945
1994年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	777
1995年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1996年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	222	10,650
1997年	-	-	-	-	-	-	-	-	90	2,280	72	1,530	-	-	-	-	1,152	35,276
1998年	-	-	-	-	873	33,866	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	852	30,576
1999年	-	-	-	-	40	1,016	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,164	39,341
2000年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,050	29,580
2001年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	248	-	-	-	-	664	17,280
2002年	-	-	-	-	2,424	50,529	391	7,345	48	735	-	-	-	-	-	-	704	18,320
2003年	-	-	-	-	45	1,726	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	520	13,944
2004年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	312	8,580
2005年	-	-	-	-	6	700	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2006年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2007年	-	-	-	-	2,972	83,390	-	-	10	215	-	-	-	-	-	-	-	-
2008年	-	-	-	-	2,417	70,958	-	-	130	3,290	-	-	50	840	-	-	30	711
2009年	-	-	-	-	1,072	15,682	-	-	75	1,260	-	-	-	-	-	-	-	-
2010年	-	-	-	-	48	543	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	818
2011年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2012年	-	-	25	1,444	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	30	1,020
2013年	-	-	-	-	68	5,627	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	128	4,953
2014年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	161	7,502
2015年	6,120	310,633	-	-	4,646	248,155	2	225	-	-	-	-	63	4,521	40	1,161	41	1,633
2016年(1-6)	6,146	293,275	-	-	6,461	310,140	-	-	24	1,209	200	6,336	-	-	160	3,963	5	871